

# 京交山岳部報

№ 288

'76 10月号

〔第1099回例会〕

美ヶ原

武石峰

(R)

日時 10月2日(土)~3日(日) 22.00 京都駅中央改札口集合  
コース 京都-松本-美ヶ原・武石ワカレ…武石峰△…美ヶ原…王ヶ頭△-松本  
-京都  
担当者 五条 坂井久光(TEL 368) 費用 約7,000円  
備考 一等三角点研究会と共催

第1100回記念例会

集中登山・霊仙山

(R)

日時 10月17日(日) 6.40 京都駅2番ホーム集合(6.51発)  
コース A. 京都-米原-柏原…北尾根…霊仙山(正午集結) 自動車  
B. 京都-米原-醒ヶ井-上丹生…谷山谷…霊仙山 本局・電車  
C. 京都-彦根-河内…権現谷…行者谷…霊仙山 希望者  
下山 霊仙山…西南尾根…河内-彦根-京都 全員  
担当者 Aコース 梅津 徳野 治(TEL 338)  
Bコース 本局 三橋 勉(TEL 245)  
Cコース 九条2 鷲見敏一(TEL 658)  
備考 1000回例会を記念して、久しぶりに集中登山をやろうという話がまとまりました。秋の鈴鹿はことのほか美しいことでしょう。ご家族連れで多数ご参加下さい。 申込み〆切 15日(金)

〔第1101回例会〕

比良

八淵ノ滝

(R)

日時 10月28日(木) 6.00 京都駅2番ホーム集合  
コース 京都-高島-黒谷…八淵ノ滝…釈迦岳…寒風峠…北小松  
担当者 横大路 大西純一(TEL601-9391) 申込み〆切 25日(月)

(第1102回例会) 湖 北

## 横 山 岳

(R)

日 時 10月31日(日) 5.00 京都東インター集合  
コ ー ス 京都東一彦根一木ノ本一杉野…横山岳△登山  
地 図 1/5万図 「横 山」  
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 652) 打合せ 集会当日

### ◀ ◦ 今 月 の 集 会 ◦ ▶

日 時 10月20日(水) 午後7時から 下鴨寮  
議 題 1. 例会(6/1098~1100) 部員動静 報告  
2. 11月例会、集会(本局) 打合せ  
3. 連絡事項 その他

— 当番 錦林支部 —

### リ ー ダ ー 会

10月4日(月)

鷺見宅 TEL 881-4994



## 内の習は外で出る

宮 後 正 樹

いいことをした後の心よい疲労とともに今年も京都岳連の山の清掃が終った。京都近傍9カ所の山地、溪谷に600人を超える岳人がさわやかな行楽の1日を裂いて山への寄与と奉仕してくれた。参加の皆さんに心から有難う。ご苦労さんを送るものである。

山頂のあのゴミの山、特に空罐の山を見ていると本当に腹立たしさを覚える。自分の持って来た飲んだ後の空罐をせめて山麓のゴミ箱のある所まで持って帰るだけのことがどうしてできないのであろうか。自然を愛し自然に親しみ、自然の恩恵をうけているものがどうして山を汚すのであろうか。1人1人がこの小さなモラルを守ることによってこんな清掃行事は不用になるのである。

昭和43年から毎秋続けて来た京都岳連の「ゴミ持ち帰り」のキャンペーンの輪は確かに広がっているはずである。しかし投げ込まれる心ない人たちの行為によってこの輪はもろくもうち消されてしまうのである。悲しいことである。

山の汚れは日本国内だけでなく、今や国際的な問題ともなっている。海外登山のラッシュでエベレストのサウスコルもアタック隊の残したボンベなどの廃棄物でまさにゴミの集積場と化し、登山

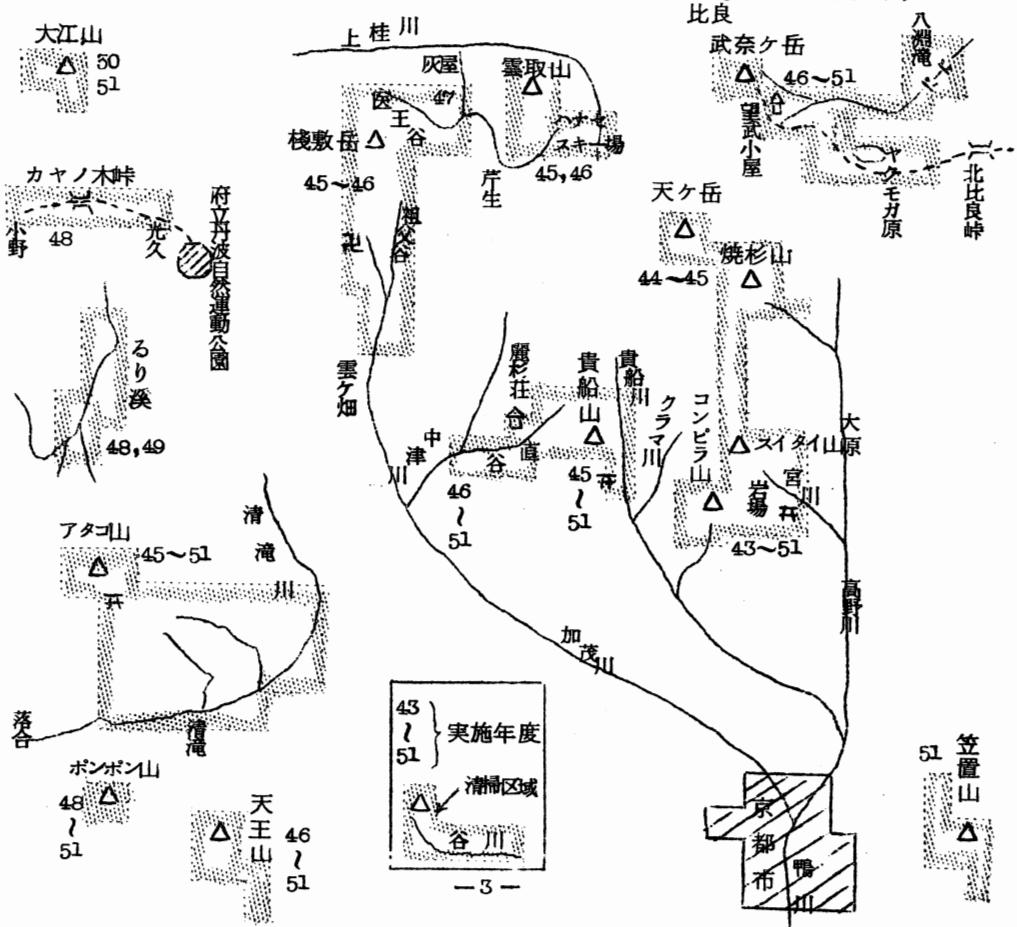
隊に清掃を義務づけているという。また登山隊やはやりのトレッカーの増加で汚れたヒマラヤでは新登山規則に登山隊の環境保全の義務が明記され、本年末にはオーストリアから10代の青年男女20数名からなる清掃隊がカトマンズからエベレスト街道のゴミ処理を兼ねてトレッキングにくり出すという計画が話題になっている。

しかし最近もっとも愕然としたニュースは、アメリカ山岳会長から日本山岳会長あての書簡である。アラスカの山、特にマッキンレーでのゴミによる公害は目に余るものがあり、さらにそのゴミの大半が日本から持ち込まれたものであるとのこと。持ち込んだ空缶やゴミは必ず持ち帰るよう日本の登山者の協力を呼びかけているのである。誠に恥かしい不名誉なことである。山へ登るものの最低限のマナーも守れないものは、海外登山へ出かける資格はない。本当に情けない話である。大いに反省し、二度と汚名を残さないようにしなければならない。

また台北大屯火山群の最高峰七星山でも山頂浄化運動を行った記事を読んだこともある。さらにカナダの自然も日本隊のゴミ処理の不備が問題になっているのである。

「内の習は外で出る」、普段から山を美しく、持って来た物は必ず持って帰るという精神を皆んなが身につけるようにしようではないか。

### 京都府山岳連盟の山地・溪流 清掃行事 実施地図 (昭和43年以降)



# 芦屋RG回顧

緑 峰 生

……ローソク岩 Candle Rock が懸垂岩に面して、殆んどパーペンディキュラーなピナクルを押し立てている。このキャンドル・ロックの初登攀などは相当に緊張させたものだ。向って正面の左脇に根方を灌木に掩われた小松がある。ここから右にエッジの欠けたレッジに沿うてトラヴァースし、中央より少し右まで出ると左頭上に一つの手がかりがあり、それを利用して右上の足場に取りつき更に左上斜めに走るクラックに沿うてキャンドルの頂点に達するのだ。このピナクルの登攀は Rock Garden を日本アルプスにたとえると、先ず「小槍」か錫杖の「烏帽子岩」という格だ。更にキャンドル・ロックで愉快なのはその下降だ。それには補助ザイルがあったに越したことはないが、たいていはアンザイレンのザイルを解いて間にあわせる。「捨て繩」なんかはもったいないから誰も使わないことにしている。ルートは登路と反対の山側のザッテルに降る。それには「懸垂」の単脚式を利用すれば安全だ。そして降りてからピナクルの頭からんだザイルのループをはずすのが時によって一苦勞だが、それには必ず「俺にやらせる」という志願者が多いから心配は無用だ。——軽く手ごたえある位にザイルを手繰っておき、振り出すループは手許で小さく先で次第に大きくなる要領で機を計って勢いよく投げかける。そしてループの波が頂上に達するより少しく早い目にしゃくり気味に引張るんだ。この要領も馴れて来ればカウボーイの綱と一緒に技術としての妙味や手際の冴えに自分ながら会心の微笑を感じるものだ……

(藤木九三 岩場の幻想「屋上登攀者」P.59)

私も最初に芦屋ロックガーデンに連れられて行きローソク岩に面したとき、ビビって単独では登れなかった記憶がある。その後は附近を通るときは必ず藤木さんの記述のような要領で登ってみることを忘れなかったが……。本を読んでいて、矢も盾もたまらず急に思いついて久しくご無沙汰している芦屋に出かけてみたくなった。8月29日のことである。

国鉄で芦屋駅下車、例のように高座の滝に行く。藤木九三氏のレリーフに敬意を表する。少憩もせずゲートロックに向ったが、谷筋の道が少し変っている。ゲートロックの中央稜の一部が何年前の大雨で崩れ落ちているのは惜しいが、その右側に崩壊によって新しいフェースができて練習するにはかえってよくなった感じがしないでもない。地獄谷を廻行する。時あたかも夏休み最後の日曜日とあって登山者はいくらか多いようだったが、空缶などが散らかっていることは、以前に比べて少しも改まっていない。この7月、穂高で遭難した藤野衆議院事務総長のザックには弁当の食べかすなどの道々拾い集めていたらしいゴミがいっぱい詰め込まれていたという。死の直前まで山を

汚すまいと努めた60歳の老アルピニストの話に胸を打たれる半面、マッキンリー峰のゴミの大半は日本隊のものだと、アメリカの山岳会から警告をうけたという不名誉な報告がある。どうして斯うも登山道徳は守られないのであろうか。

趣行して新万物相を左に見て溪道が尽きるあたりから登路を右の中央稜にとれば、ロックガーデンの中心地点は近い。芦屋の裏山一帯は同化した花崗岩で、雨が降れば鉄砲水の出る危険地帯であったが、阪急電車や六甲の緑を守る会が登山者岨下車駅で種子を配り、随所にまかせた甲斐があった、見違えるように植林され面目を一新している。

もうい露岩の尾根をB懸垂岩に行ってみると、フットホールドが更に増えたようでもう岩増という感じがしない。それに気がつくことは、私たちが山に登りはじめた頃の道具といえば、マニラ麻のザイルのほかハンマー、ハーケン、カラビナが三種の神器だったのに比べると、カラフルなナイロンザイル、確保に関する多種類の用具は気の速くなるほどに進化しており、殆んどクライマーがこれを使用していることである。帰宅して水野祥太郎著、岩登り術 第二版(昭和8年 黒百合社刊)を読んでみて実に今昔の感に堪えない。

少憩して万物相に向う。A懸垂岩はなつかしい岩場のひとつだが、ここも3組のクライマーが練習していた。しばらくは懐しく見ていたが、ここでも七つ道具が存分に使われており、技術的にもモラルサポートが主だったかのような時代から完全なアーティフィシャル、エイドの時代になった進展にいつものことながら言葉もなかった。

ここに最初に書いたローソク岩がある。いやあったのだが、今は跡片もなく根元から消えてローソクの燃えかすに相当する部分すらも残っていない。その北寄りにあったチョックストーンのあるチムニーも大きく崩れおちて既に昔の面影はない。この附近で砂の斜面を利用してグリセードの練習をしたものだが、今ではそんな行動をするような人にはお目にかかるべくもない。

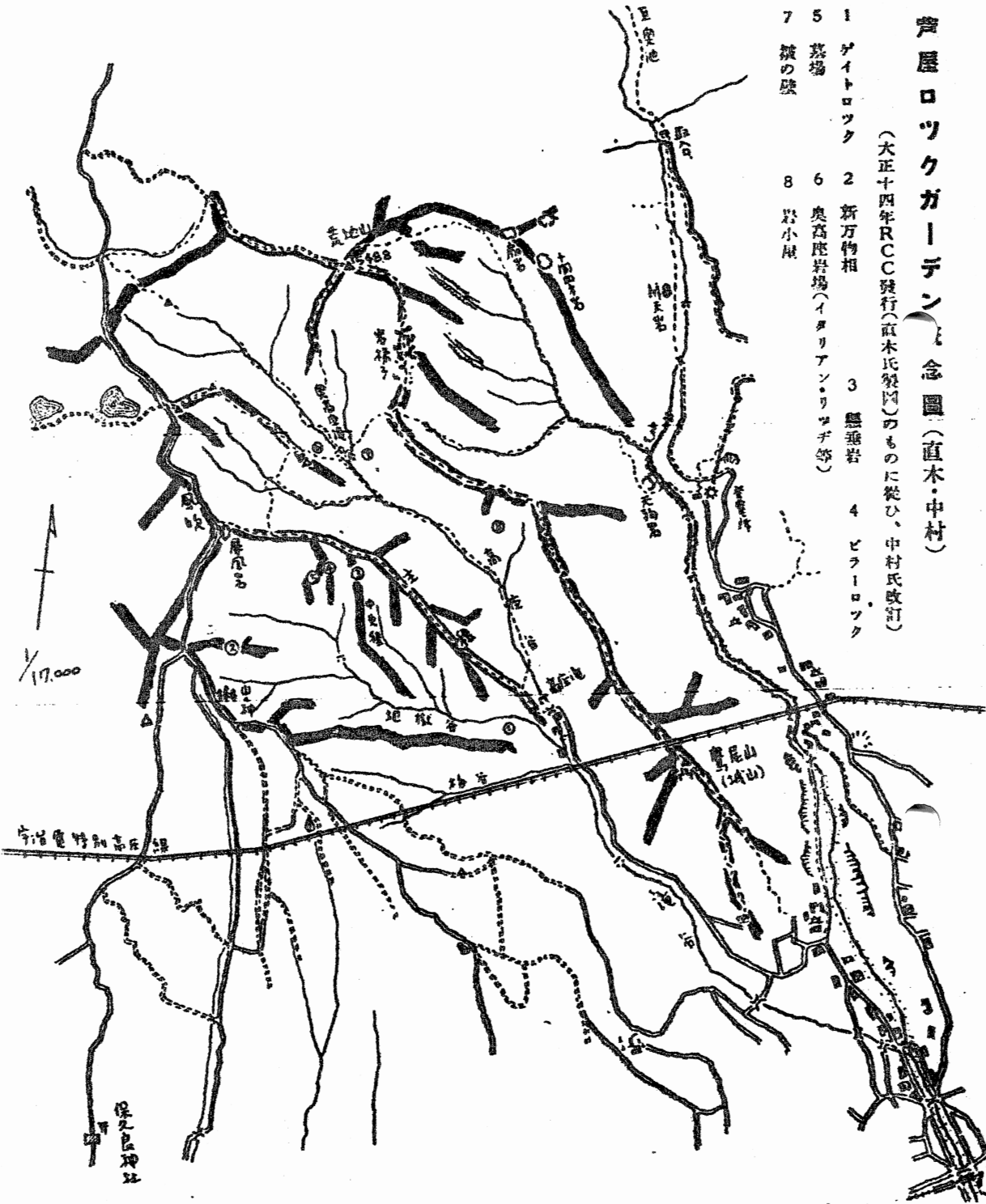
ピラーロックや墓場と称するあたりから主稜をこえて高座谷に下り、更に支尾根をこえて奥高座滝とおぼしきあたりに出る。ここには巨大な堰堤が作られて面目を一心し、昔日の面影がない。イタリアン・リッジも下部が崩壊して生い繁った雑木の中に消然ととり残された感じである。然し対岸キャッスル・ウォールから荒地山岩梯子の尾根に至る岩群では快晴の陽光をうけて10組に近いクライマーが、あるいはトカゲをきめこみ、あるいは順番を待つようにしてたむろしていた。赤青のザイルの色彩がどす黒い岩に反映して目も覚めるばかりである。独り歩きのワンデルングは気楽なもので、岩の感触にひたりながら、これらの間を縫って黒岩尾根に登り、引返して奥高座滝から高座谷を下って芦屋川駅に辿りついた。

どうも谷筋を一巡しただけでは物足りずに、次の日曜日(9月5日)にまた出かけた。こんどは尾根筋に登ることとし、芦屋川駅から高座滝道に途中で別れて鷹尾山(城山)に登る。この附近、城山宅地造成反対の立看板が無数に目につく。何処も同じ開発熱におびやかされているものと嘆かわしくなった。この途中で、「金もかからずに健康法としては山が一番よろしい」という気品高い老夫婦と一緒にいる。いつも老妻の病氣勝ちに悩まされている私にとっては実に羨ましい限り

芦屋ロツクガーデン記念圖 (直木・中村)

(大正十四年RCC發行(直木氏發圖)のものに從ひ、中村氏改訂)

- 1 ゲイトロツク
- 2 新万物相
- 3 懸垂岩
- 4 ピラーロツク
- 5 墓場
- 6 奥高座岩場(イタリアン・リツヂ等)
- 7 城の壁
- 8 岩小屋



であった。鷹尾山を超えてしばらく行くと、休憩している数名の老人群に追いつく。こゝでまた少憩。道連れになった老夫婦と共に休んだが、この人たちは常連らしくしばらく話し込んでいた。話の内容は友人であった大阪市長や銀行重役などにもふれて、どうやらそうそうたる老実業家であると推察された。この人たちにしてこの行為（登山）あり、私たちももっと歩かなければいけないと痛感した。

一行に別れ途中、高座滝への道に分れて行くと尾根筋に赤ペンキでさかさまにキケンと書いた岩があった。変なことをしたものだと思いきよ見ると転げ落ちて倒さになったもので、矢張り雨か何かで崩れたものであろう。

奥高座滝東方の岩群までは駅から2時間もかかったであろうか。この日もまた快晴にめぐまれて数組のクライマーがトカゲをきめこんでいた。例によりその間を抜けて見晴らしのよいテラスに至り昼食をとり、午睡若干時間。目が覚めてまた岩小屋のある岩群の間を通り抜け尾根に出て荒地山に至る。ここは標高565.6mでゴロゴロ岳・雷岳ともいい、また黒い岩がべったりだから黒岩山ともいうが、私はその昔、神戸沖の観艦式をみるため、宝塚から縦走してこの山に登り、頂上についた時は日が暮れて海が見えなかったにかがい思い出がある。

荒地山を西へ下りて奥高座右俣の余り歩かれていない道を北西へ500mぐらい辿ると風吹岩からゴルフ場に通ずるよい道に出る。これを南に引返して1,000mで風吹岩がある。風吹岩は高座主稜西側ではロックガーデンの北限で、ここからの眺めはすばらしい。足下に岩群、中景に神戸港東部埋立工業地帯が眺められ、天気によければ大阪湾東岸から遠く紀泉の山々を望むことができる。好天にめぐまれて四囲の山を眺めながら休んでいる人たちは数十人に達し、私もつられて半時間も遊んでしまった。高座主稜を、休み、眺め、写真をとりながらゆっくりと下って高座滝に着くと、ここもまた大勢の登山者が1日の疲れた身体を休めていた。

次はどのコースにしようか。いつ来ても芦屋の山はなつかしい。（9月10日）

## 第1093回例会

# ドウの天井

宮 後 正 樹

奥美濃最後の山といわれるドウの天井、それは奥美濃の黒部とも呼ばれる板取川、川<sup>か</sup>浦谷のさらに支流の峡谷、西ケ洞と箱洞の分水嶺にあって、立派な二等三角点を据えながら、なおかつ5万分の1図や最近できた2万5千分の1図にもその山名の入っていないまさに秘境の山だからであろう。しかし開発の波は魔の峡谷と呼ばれた川浦谷にも押し寄せ、すでに銚子の滝下流まで林道ができて今やかつての峡谷は見る影もない有様という。さらに驚いたのはこの西ケ洞の源流コセイ洞の水を根尾東谷川へ流して水力発電をやるというとんでもない計画で、そのためヘリコプターが資材を運び上げ、目下盛んにボーリングが行われているという情報である。

私たちはドウの天井への登路としてA B C Dというんなルートを検討した。板取川から西ケ洞を

廻行し、箱ヶ洞へ下るルートは中でも最も魅惑的な尖鋭的なものであったが、日程などの関係から根尾東谷川、廻り谷をつめて西ヶ洞源流のコセイ洞に下りて幕首、ドウの天井を極めることとした。このルートはかってドウの天井の二等三角点標石を担ぎあげたコース(下大須長老の話)でもある。

同行者はいつもの牧、武田、三橋、大槻、田中君のほかに関本、吉田、守山君も参加してくれ申し分のない9人のメンバーが揃う。ところが前夜から降り出した雨は、出発の朝になっても一向に衰えず家を出る時はドシャ降りとなっていた。それでも誰1人として問合せの電話をかけてくるものもない。というのも7月の不動山・千回沢山でマンマと台風接近にカラ振りをくらって苦い思いをさせられたからである。二つ玉低気圧の通過で風雨注意報も出ていたが、天気図では高気圧が張り出して来ているので決行とし、家族の反対を押し切って集合場所の醍醐車庫へと急ぐ。冴えない顔がそれでも揃って守山君の9人乗りマイカーに食糧、装備などを満載して出発、名神東インターに乗る。

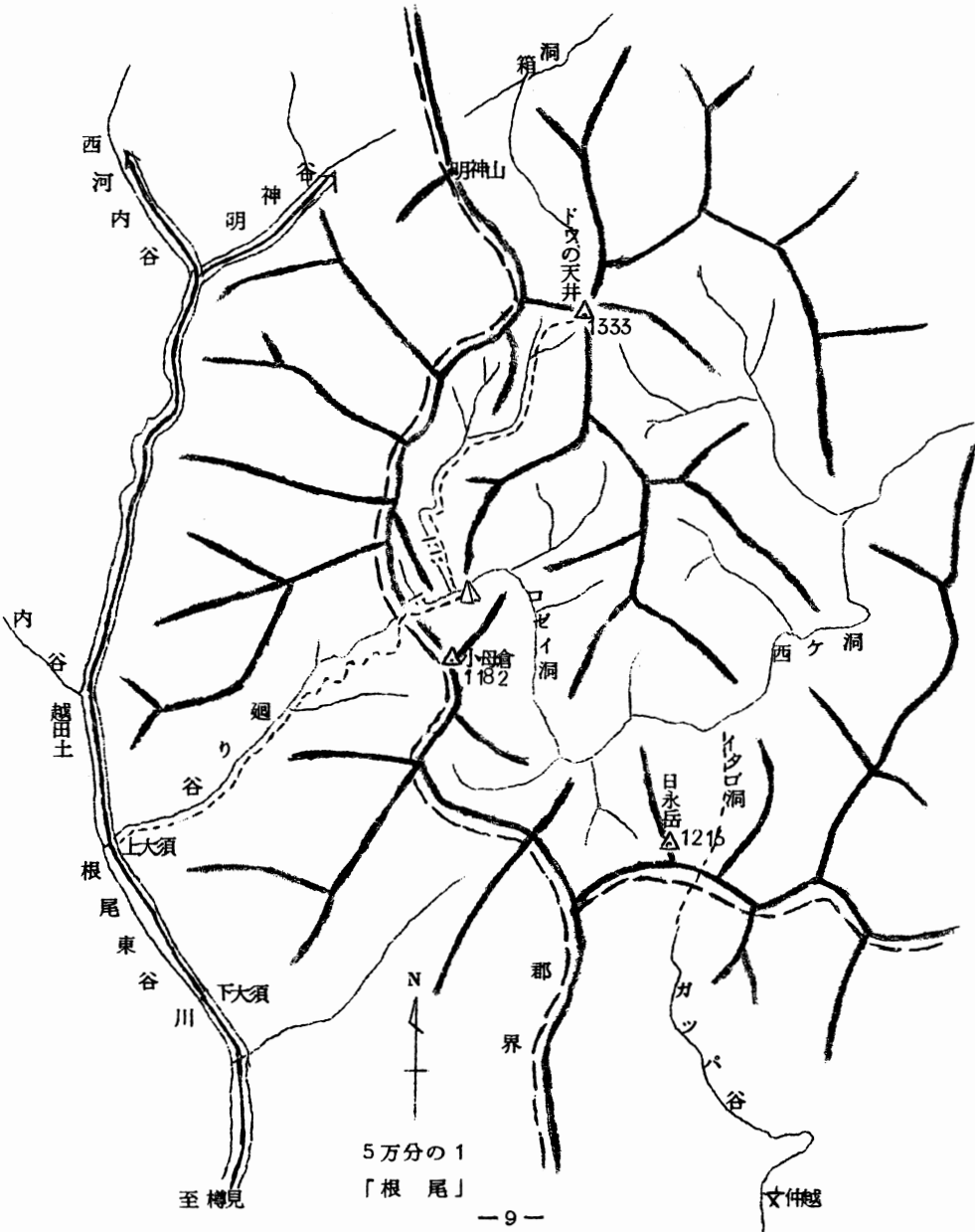
関ヶ原を過ぎるとウソのように青空も覗いて低気圧通過を告げていたが、目指す奥美濃山塊はまだすっぽりと重い雲におおわれている。樽見のレストランで昼食をとり、根尾東谷川を北上する。雨はすっかり上ってジリジリと照りつける夏の太陽が我々を迎えてくれた。ただ増水が激しく濁流が気がかりである。道路上を流れる小谷のカブリを何回か跨いでとどんどん溯るとやがて最も水量の多い廻り谷の大カブリに着く。車ごと押し流されはしないかと恐る恐る渡る。ここが上大須で右手の林の中に1軒屋があるが、留守でその奥の廃屋のような家に幸い老人が1人居られたので道と工事の状況を尋ねたが要領を得ない。工事をやっている西濃建設の事務所がこの先にあると教わり飯場を訪ねたが、ここでも山の様子は分らず、さらに上流の越田土に地元の川瀬さん(以前は菊花石などの採掘に入っておられ、山のことも詳しい)が居られるからと案内してもらい。飯場には幸い川瀬さんが居られ親切に教えていただき、やっと登路がはっきりする。越田土の現場からはもうすでに水を流す横坑が1キロばかり山の中に延びており、上池(ダムの上の池のこと)には沢山の人が作業をしているとのこと。登路はここからも上っているが廻り谷からの方が楽で作業場への荷上げにも利用され道もよいとのことと、再び上大須に戻る。

大カブリを渡ってヘリポートとなっている根尾東谷川の河原に車を置いて登山準備、上池へ荷上げの人が2人先行して行った。登路は廻り谷左岸から始まり丸木橋も整備され良く踏まれた1本道である。約30分で枝谷を渡り道はジグザグに真中の尾根へと上っている。荷上げの2人が休んでおり、ダイナマイトとガンリン、米などを持って上るところだった。廻り谷本流は次第にけわしく急になって大きな崖から立派な滝が懸っているのが見下ろせる。荷上げの人と追いつ抜かれつで高度を稼ぐ。途中クヌギの大木があり、カブト虫を見つけ樹をたたくとヒラクワガタや小さいベタがバラバラと落ちて来た。都会の子供たちにとってはノドから手の出るような虫たちである。可愛想なので帰りの土産にと樹に戻してやり最後の登りを頑張る。ギボウシがまだ固い花をつけフシグロセンノウのオレンジ色が鮮やかだった。頂度2時間、早いピッチで標高1,020m郡界上の鞍部に達すると、もうそこには中電工事KKの徳川組作業所の看板がありワイヤーロープが張りめぐらさ



れてモーターがうなりを立てていた。ふり返る廻り谷の上には1,234 mの大白木山がすっぽりと雨雲をかぶって対峙していた。

作業所の人に聞くと、ダム建設のための地質調査でこの下西ヶ洞まで数ヶ所でボーリングをやっており、ハッパをかけているので必ず作業の人に声をかけ、断ってから下るよう注意を受ける。ブツッな話しに恐る恐る下りかけるとハッパを知らせるサイレンである。グラッと地響きとともにドカーン。思わず身が縮む。キナ臭い白い煙が坑道からモクモクと出てくる。昨夜の物凄い雨で100mもあるうか、大きな滝がこの稜線の下の対岸にかかっている。これだけ高い所に水があり



稜線との巾が接近しているので、稜線の反対側へ水を落して発電しようというようなプランができたのであろう。珍しい地形である。

ハッパで砕かれたガラガラの上をずるよう下って谷筋に降り、コセイ洞の出合へと下る。水中にもハッパの穴が大きくあき、岩が吹き飛んでいた。15分余りで大きくカーブした出合いにつく。カーブの左岸、内側のテラスに飯場のあとか材料置場だったのか、板を敷いた格好の台があって、頂度エスパーズ2張りがその上に張れるので、ここをベースと決める。食事の用意をしていると作業の人が下りて来て、我々の行動予定を聞いて行く。今日も明日もまだ周辺でハッパをかけるので、サイレンの合図に十分注意してほしいとのこと。直ぐ後で、今下って来た小谷からドカーンと水柱が立ち、たちまち濁流が流れて来た。冷えたビールと焼肉の夕食がうまい。生れて初めてだといいながら30数箇のオニギリを田中君が握ってくれて、明日の弁当ができた頃には立派な焚火も火勢を増し、久しぶりのキャンプ。心配した雨雲もすっかり晴れて降るような星を仰ぎながら2つのテントに入る。

8月29日 せせらぎの音で眼が覚めると頂度5時である。谷の水は20cm近くも減水して澄み切っている。地下足袋4人、磯足袋3人、キャラバンシューズ2人のいでたちで40mのナイロンザイルを持って出発。ザブザブと5分も進まないうちに早速広い滝ツボのある5mほどの滝である。左岸を登って越えると今度は大きく4段になった連瀑である。フリクションを利かしてこれも左岸を捲いて20分で通過する。天気は上々で快適な溯行である。巾1.5mほどの美しいトロ、次いで斜瀑となかなか楽しい。続いて前面に大きく落下する30mはあろう大滝が2段も重なって行手をはばむ。左岸の草つきを高捲いて本流へ戻る。30分を要したが、大きな杉の木にジャクナゲの林で良いルートだった。美しい紫の花をいっぱいにつけたトリカブトが右岸一面に咲き誇っていた。

この辺までくると5万図ではどうにもならない。2万5千分の1図にある5~600mのガレ記号部をようやく突破したようだ。谷相は一変して広い平らかな流れが原生林の樹の間をもれる逆光にまばゆい。普段は写真をなどといったこともない田中君が、写真を撮ってくれと催促するほどに素晴らしいところだった。面白いモザイク模様のような岩面をきれいな水が足首ほどの深さで流れている。1,219mへの広い出合いを左に見送り10分ほどでドウの天井からの稜続きにある1,289mへの谷を右に分けて左へ北上する。階段状になった布滝を越えて最後の岐れを右に入りいよいよ三角点めがけてのツメである。ツメからは稜上まで僅かに30分足らずの突き上げで、さらに頂上まではもう20mそこそこのドンピシャであった。

東面と北側の一部がやゝ開けた1332.7mの山頂には立派な二等三角点が、きれいな隷書の文字を浮き出していた。「奥美濃最後の山・ドウの天井バンザイ」が木霊する。罐ビールにノドが鳴る。キアゲハが舞いアカネトンボが飛び交うのどかな山頂である。心配したアブの襲撃もなく、ここで初めて1~2匹大きいやつが現れたが、直ぐに姿を見せなくなり持参の網も無用で拍子抜けの感だった。オニギリを食べ展望を楽しむべく樹に登ったり、枝を払ったり思い思いに山頂を楽しむ。北には平家岳を隔てて白山が赤茶けた山肌を見せていた。誰かがこんな色の白山は初めてだと感激していた。さらに西へは特徴的な屏風山、その向うに姥ヶ岳の平らかな山容と能郷白山が堂々たる

ボリュームで納まっていた。また冠山、金草岳の尖峰から遠く伊吹山まで奥美濃の山々が一望であった。三角点の横にあったマンダムの瓶の中には、76.5.16明神沢から明神山を経てやって来た犬山山岳会の渡辺、磯山氏、76.8.1 三文橋、石門、日河原洞から山頂を極め箱洞へ下山の鶴沼登高会、野呂伸一、卯野幸裕氏、さらに大垣山岳協会の小倉、丹生、長尾、高橋氏の西ケ洞出合6:00～洞の天井4:20の記録が入っており、我々の記録も一緒させてもらった。

滞頂2時間半を許されヤッホーをかけ下山とする。ハイビッチの下山で最後の大滝高捲地点まで一気に下る。ハッパを知らせるサイレンが遠く鳴り響いているのが聞えた。落石に気を配りながら下って滝の下で小憩し、下の大滝のフィックス工作に関本、守山両君が先行してくれる。おかげでスムーズに下降を終え2時間45分でベースに戻ることができた。

早速テントを撤収し、再び郡界尾根に登って廻り谷を下る。クヌギのクワガタは姿を見せず、ボーズ2匹を土産にヒグラシに迎えられて上大須へと戻りまた一つ奥美濃の山旅を加えることができた。夕刻から再び激しい雨となり、翌30日には夏山シーズンの終幕を告げるかのように北アルプス穂高岳一帯の3,000m級の尾根筋には、昨年よりも3週間も早い初雪が降ったと夕刊が報じていた。

それにしても岐阜県下奥地において4日間連続2000ミリという豪雨をもたらした台風17号は遂に長良川の堤防をも破壊し、瞬時にして巖俣、安八の2町を水没させる大被害を出した。愛する奥美濃の山や谷も相当にやられているのではないだろうか。気がかりである。被災の皆様には心からお見舞いを申しあげ、一日も早い復旧をお祈りする次第である。

〔参加者〕

牧 定夫、武田喜久郎、大槻雅弘、関本俊夫、田中忠久、守山寿彦、吉田 武、三橋 勉、  
宮後正樹

〔コース・タイム〕

8/28(土) 9.00 京都東インター	8.00 岐れ、広い出合、右へ
13.30 上大須	8.10 岐れ、左へ
14.10 出発、廻り谷	8.35 最後の岐れ、右へ
14.40 谷の岐れ、尾根へ	8.55 ツメ、小憩
16.05 郡界尾根鞍部	9.18 稜上
～ 16.30	9.25～11.50 ドウの天井△ 1332.7 二等三角点
16.47 コセイ洞出合、幕営	12.15～20 高捲地点
8/29(日) 5.00 起床	12.43～13.00 滝の下
6.00 出発	13.15～20 4段の大滝
6.03 5mの滝	13.35～14.05 テント地、撤収
6.20～40 4段の滝	14.20～30 郡界尾根
7.00～30 二段の滝、高捲	15.45～16.15 上大須
7.40 広い河原	21.00 帰京

# 姥ヶ岳

九条 河村 敏 夫

2年前に温見より谷筋を登ったが、思いの外悪い谷で退却した宿題の山であった。今回は1087回例会のコース、平家平から登る。

自宅(山科)を4時8分出発、名神彦根I.Cを5時1分通過、国道8号を木ノ本へ、それより国道365号(北国街道)を経て武生で再び8号を走り、福井市の足羽川右岸を右折し、国道158号で大野市を通る。建設中の真名川ダムを左に見て廃村集原に着く(10時) 此处から歩くのは少し無駄のように思ったので、車には悪いが入れる処迄行く事にした。両側から覆う草をわけて行く事30分程の処で道路決壊の為それまで。(10時35分、標高760m、走行軒258km) 頂度駐車も出来、テントも張れるし、清流も有り快適な場所だった。

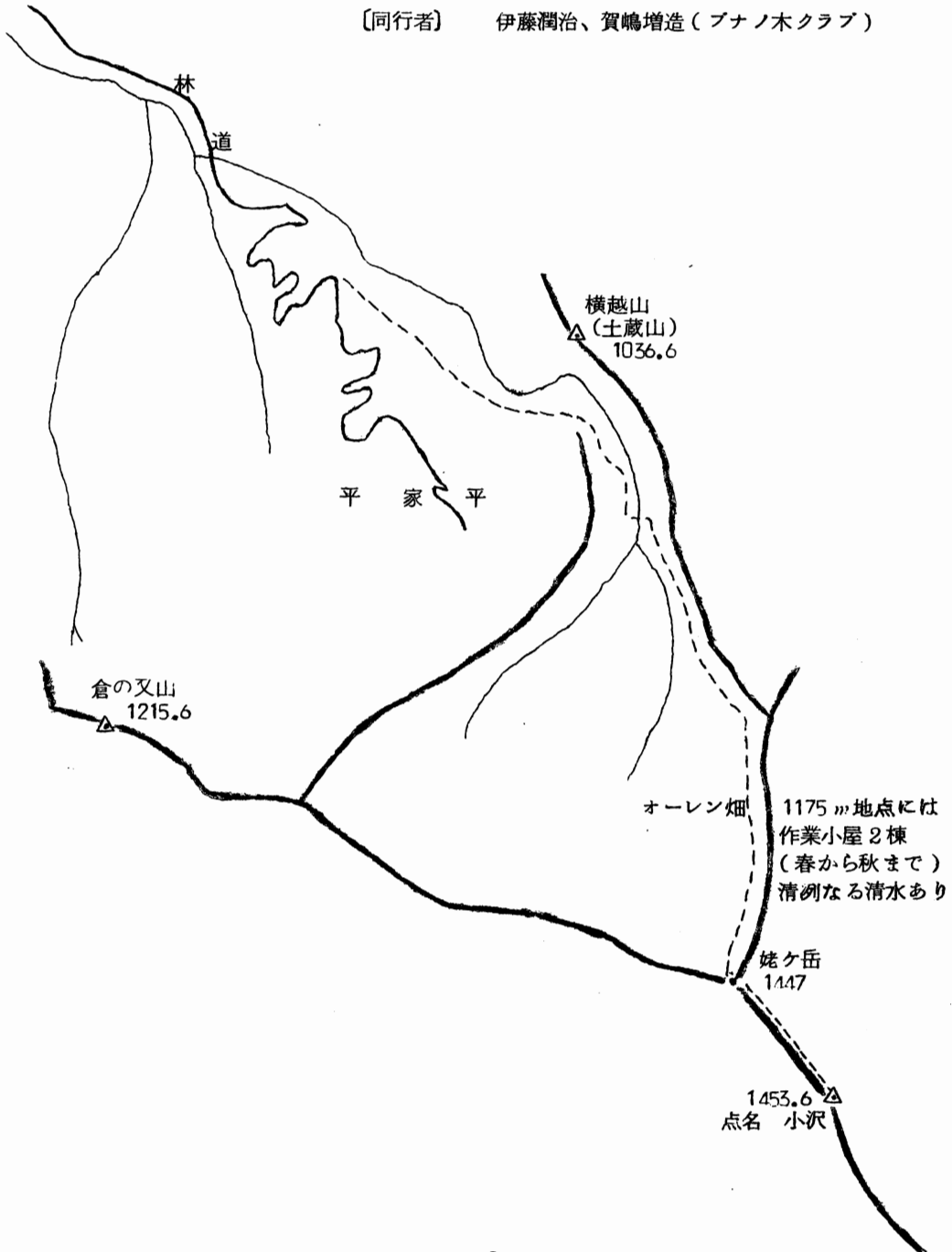
昼食だけ持って出発(10時50分) 10分程歩いた処で林道と分れ左へ入る登山道に行く。(長さ1m位のコンクリート橋が掛っている) 1時間位の処で道は分れる、右の山側へ入る。よく踏まれたこの道は何処まで続くのかと、又、姥ヶ岳のどの方向にたどり着くか等の不安と期待が交叉しながら、たゞ黙々と歩く。溪流も3度わたる。黄蓮畑が現れて来た。行く手に煙と人声が聞えて来た。近づけば、なんの黄蓮作りの人達だった。作業小屋も2棟あり(春から秋迄)、標高1175m。林道より分れて1時間30分位の地点、遅い昼食(12時30分)をして、種々話を聞けば、先日田中君達が集原で種々話を聞いた同老人も居られた。道も此处まで。いよいよヤブだ。完全武装に身をかためて真夏のヤブに突入(13時)する。少しでも透いた処と思い透かしながら、又ナタ目を入れて進むが、中々はかどらない。尾根が広いのですぐ方向がわからなくなる。足は取られる。顔はたゞかれる等で汗が一度に出る、覚悟はして来たものの想像以上のヤブで時間を喰い、独標点(1447m)らしき処で14時48分、ここで方向を南々東に向かって進むが、相変らず時間を喰い、500m程進むのに1時間かかっている。目ざす三角点附近までまだ1時間かかると判断し、今日はこれ迄と15時45分退却する。ナタ目を頼りに下山する。帰りも同じく時間がかかる。黄蓮小屋(18時50分)、駐車点(21時頃)に帰着。すぐ設営、炊飯の上23時頃、シュラフにもぐる。

第2日 起床5時、出発6時50分。昨日の道順で進む。黄蓮小屋8時15分~8時30分、独標点11時20分~(昼食)~11時55分。昨日のナタ目を目あてにしていたが、中々見つける事が出来ず。又、見つけてもすぐうしなうような事で、今日も思うようにはかどらない。昨日の退却地点12時27分、もうすぐだと心はあせるが、体は茨ヤツルで自由にならず、昨日に続く2日目のヤブこぎで疲労度も増している等ではかどらないが、伊藤氏のするどい感とファイトにより、13時25分目的の二等三角点(点名 小沢)1453mを確認した。下半分位は美しい青い苔を着けて鎮座していた。やれやれこれで大問題が解答出来た心持ちになり、干杯のビールも体のすみずみ迄浸透したよい心持ちにした。標石の周囲2m程を刈込んで、14時帰路に向い、駐車点には17時45

分帰着。靖江の上海飯店で夕食をすまし(21時10分~21時50分)往路を我が家へ向い、23日1時15分無事自宅前に着く。

振りかえって見れば、今日は私の第51回目の誕生日であり、又、最近にない長い時間行動し、後遺症が半月余り続いた忘れられない一日だった。

〔同行者〕 伊藤潤治、賀嶋増造(ブナノ木クラブ)



## 局内登山大会

# 北八ヶ岳と蓼科山

田 中 忠 久

北八ヶ岳は夏沢峠から始まり、蓼科山のふもとと大河原峠まで続く広大な樹林帯で、樹海の中の小さな湖が北八ヶ岳のロマンを奏でている。その北八ヶ岳と諏訪富士と呼ばれる2、530mの蓼科山が今年の登山大会に選ばれた。

8月18日 19時40分、私達一行80数名は、夕もやの残る京都をあとに、名神、中央自動車道を経て一途信州へと向った。

京都東 I.C 20.05 一駒ヶ根 I.C 24.00 一女神湖ホテル 2.20

19日 女神湖畔のホテルで少し仮眠をとった私達は、あわたとしい朝食を済ませバスでダズマ平へと向った。標高1,500mを越える高原の朝はさすがに涼しく、気分爽快である。ピラタスロープウェイに分乗して、高度差466mを7分ばかりで笹平の山頂駅へ。駅前広場に集結、準備体操、コース説明、班編成等を終えていよいよ出発である。熔岩が形成する天然の庭園、坪庭や樹林の中の七ツ池などを観賞しながら、北八ヶ岳の主峰、横岳2,472mに登る。眼下に広がる樹海や大河原峠方面の草原が美しく、肌をなせる風がこゝちよい。

山頂のケルンを囲んで記念写真を撮り、再び双子池目指して出発である。途中、亀甲池への下り(約430m)が意外ときつく、時間もかゝったので、双子池の予定を変更して亀甲池畔で昼食にした。亀甲池から約30分、雄池と雌池からなる双子池は幻想的なふん囲気をもつ美しさであった。もっとゆっくりしたかったのだが、私達は先を急がなくてはならない。さあ!また出発である。

樹間の道を抜けると、広い草原状の双子山山頂である。左手には今日の最後の目的地、蓼科山が高く聳えている。眼下には大河原ヒュッテの赤い屋根が美しい。

草原の道を大河原峠に下る。峠から一部の人は路線バスを利用して蓼科七合目へ。他のものは最後のがんばりと蓼科山の登りに挑む。少し疲れの出た来た人もあったようだが、よくがんばって蓼科山荘まで1時間、山荘の前に荷物を置いてガラ場の道をさらに30分で山頂へ。

意外に広い蓼科山山頂であった。ガスで展望はきかなかつたが、皆の顔には目的を達した喜びが満ちあふれていた。記念写真を撮って下山。蓼科山荘の前で少し休み、薄暗くなった道を蓼科七合目へと下った。一同集結してバスで女神湖ホテルへ。少し遅くなったが、登山の後の冷えたビールと焼肉の夕食は最高にうまかった。

女神湖ホテル 7.20 一ロープウェイ乗場 7.45 ~ 8.00 一終点 8.10 ~ 8.45 …七ツ池 9.50 ~ 10.00 …横岳 10.30 ~ 10.45 …亀甲池 11.50 ~ 12.40 (昼食) …双子池 13.15 ~ 13.45 …大河原峠 14.45 ~ 15.15 …蓼科山荘 16.20 ~ 16.30 …蓼科山 16.55 ~ 17.10 …蓼科山荘 17.35 ~ 17.45 …蓼科七合目 18.30 ~ 19.00 一女神湖ホテル 19.15

20日 朝早く起きて自転車女神湖を一周する。夏とは思えぬ涼しさであった。朝食をゆっく

り寄せ、バスに乗りピーナスラインを走る。白樺湖、霧ヶ峰と美しい湖、高原を満喫して諏訪湖に下り昼食。再び中央自動車道、名神を経て無事帰洛した。

女神湖ホテル 9.00 - 諏訪湖 11.45 ~ 13.45 - 駒ヶ根 I.C 15.30 - 京都東 I.C 19.25

〔山岳部参加者〕

宮後正樹、三橋 勉、武田喜久郎、大槻雅弘、田中忠久、壬生そと、上島和彦、池田弘之、守山寿彦、鷺見敏一、津田 実、楠とし子

### 第1097回例会

## 土蔵の三角点 三 ッ 又

吉 田 武

早朝5時05分に、例のごとく日の岡より東インターから彦根へと進む。7時05分に土倉へつく。ちょうど2時間で廃坑の手前の出合につく。台風の為に道路が切断されて、やむなくこれより登山者となる。

7時25分出発する。やがて初めての出合につく。左手にルートがあるが、あまりふまれていない。草がよく茂り、行く手をさえぎるようなので沢歩きする事にした。途中で地下たびに変える。今シーズンは2度目の沢登りである。水量が多く度々よく茂った草の中を歩かなければならなかった。滝の高捲だけはよく踏まれている。やがて三角点へつき上げている沢と土蔵岳へつき上げている沢との出合につく。本日の行程は、三角点と土蔵岳へ行くつもりだけれども、先づ三角点目標に左手の沢を登る事にした。大小さまざまな沢が落ちこんで判りにくいが、4名かチームワークよく最後の出合につく。左側の沢にはまだ若干の水があるし、地図を見ても三角点へは近いので、この沢をつめる事にした。すぐに水はきれいなので、ヤブこぎをする事にした。石楠花とつげが我々をこばんでいるかのように茂っていた。

早朝よりの行動で腹がへったので、昼食にした。視界もよくなり、やがて秘線につく。踏跡もしっかりしていた。大槻さんが前方に見える木の所に三角点があると思うとの事で、僕もそのへんじやないかと思ひ進む。やがて8cmぐらい頭の出た三角点が見つかった。なんだかみじめな感じがしたので大声でバンザイ三唱して、見晴らしのよい所で休憩した。

三角点へつく時間が遅かったので、土蔵岳へは行かずに、20分ぐらいでもときた道を下山する事にした。赤布を目じるしに3時間15分で下山して、帰路につく。

〔コースタイム〕 9月19日 晴

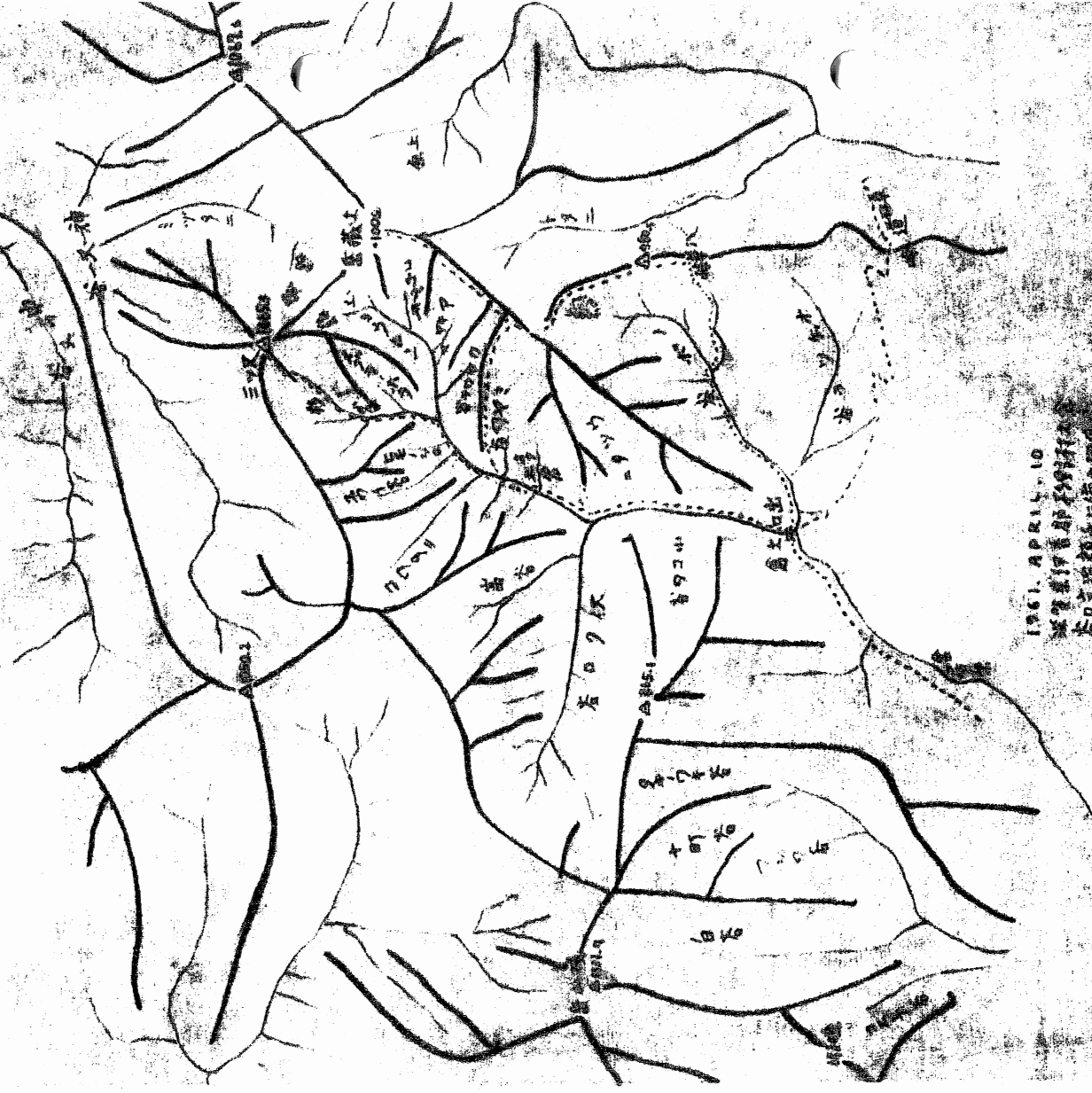
5.05 京都発 - 7.05 ~ 25 土蔵... 10.20 出合... 12.10 昼食... 13.00 三角点・ 13.45 出発...

17.00 下山 - 19.30 京都着

〔参加者〕

山村敏郎氏、三橋 勉、大槻雅弘、吉田 武

图一、分万五山積号一十第明岳藏土



1961. APRIL. 10

五岳山積号一十第明岳藏土  
 分万五山積号一十第明岳藏土  
 同五岳山積号一十第明岳藏土  
 五岳山積号一十第明岳藏土

五岳山積号一十第明岳藏土  
 分万五山積号一十第明岳藏土  
 同五岳山積号一十第明岳藏土  
 五岳山積号一十第明岳藏土



吉田 武君たちが、第1097回例会で登ってきた1065.4メートル峰は、「点の記」によると「三ツ又」になっている。参考までに点の記を部分抜粋すると、

所在 美濃国揖斐郡坂内村大字川上字三ツ又 俗称 猫ヶ洞  
 所有主 川上組共有地 管理者 村長 中橋万弥  
 地目 保安林 980番  
 順路 川上区ヨリ夜叉池ニ通ズル溪流ヲ行クコト3里半 尚谷川ヲ上リテ行クコト凡1里ニシテ本点ニ達ス道険ナリ案内者ヲ要ス  
 選定 明治38年7月22日  
 造標 明治38年9月6日  
 観測 明治39年5月29日

以上の如くであるが、ここは江美国境稜だから、当然近江国での山名が呼ばれている筈だが、私の土蔵登山の折には、この山名を知る事ができなかった。近江国の山名も知りたい。

それはともかくとして、この1065.4メートル 三等三角点峰の山名は、やはり点の記へ素直に従い、三ツ又を用いて呼称することが、自然であると思う。

1976年9月22日 伊藤潤治

### かかわりあいの辨

9月19日の土蔵行には、参加できなかったが、翌20日の下鴨寮の集会に出席した。気がつくのと、概念図を提供することになっていて、先づ、うれしかった。

けれど私の足跡には、ほとんど概念図を残しておらない。その理由は、満足できる図が描けない為めである。だから、しもたってもあった。

しかし、きょうこの頃の私では、こんな図でも、もう書けないにきまっているので、不出来ながら潔ぎよく、役立ててもらふ事にした。

## 例会報告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1093	奥美濃 ドウノ天井	8月28日 ～29日	曇 晴	本局 宮後 正樹	牧 定夫氏 三橋 勉 関本 俊雄 武田喜久郎	天候に恵ぐまれ、ルート選定もうまくいって、快的に堂ノ天井に登って来た。参加者も多く、楽しい山行であった。
				大槻雅弘、吉田 武、守山寿彦、田中忠久		詳細別稿報告
1094	北ア 常念岳	9月10日 ～12日	雨	五条 坂井 久光		台風接近のため中止

1095	家族 キャンプ 祖父谷	9月11日 ～12日	雨	本局 大槻 雅弘		台風接近のため中止
1096	台高山脈 マヨイ峰	9月17日 ～18日	晴	横大路 大西 純一 清水 讓、福田延行、小林達雄	上島 和彦 井上 国雄 進藤 義治	往路に薊岳コースを取ったので、マヨイの水場まで行けず、明神平で幕営。翌日、マヨイ峰往復。 詳細次号報告
1097	三ッ又	9月19日	晴	梅津 吉田 武	山村敏郎氏 大槻 雅弘 三橋 勉	久しぶりの5時出発の山行で、登り5時間、下り3時間と、美濃らしい手ごたえのある谷歩きであった。詳細別稿報告

## 部 員 動 静

### (山 行)

目的地	月日	天候	参加者	記 事
比良 口ノ深谷	8月24日	時々 雨	横大路 大西 純一 井上 国雄	朝の5時頃には雷をともなったすごい雨であったが、空を見上げると明るく、6時頃には雨も止んだ。三条京阪から7.20発の梅ノ木行のバスに乗り、坊村に着くとまたはげしい雨である。30分程すると止んだので出かけて行く。30分も歩くと口ノ深谷と立て札が立っている。ここから地下足袋・わらじで谷に入る。ザイルを持って行ったが使わずに済み、14時半頃中峠に出られた。全員下着までズブぬれになり寒かった。
愛宕山 (第20回)	8月19日	晴	畑 照人	お馴染み愛宕さん参りも遂に20台の中台にのせる事になった。月輪寺コースをとる。高雄道との岐れ道を少し過ぎた地点の山側で、ゲンノショウコが沢山生えているのを見る。下山もこの道を通して採取しようと思う。昨夜のお茶のポリタンを冷凍庫でつめたかったので、飲むとほんとうにうまい。然しこれが少し失敗である。というのは完全に凍結したので、とけなくて引続いて飲めない。ガブガブ飲まないで、却ってよかったのかも知れないが…。神社参拝、気温は21°である。50丁の丁石の前で記念撮影。昼食していると猫がよって来たのもう一枚、猫ちゃん写真をとる。社務所の広場へ行き休憩する。今まで来たこと無い。フト見るとゲンノショウコが一杯生えている。これこそ神のお告げと採取する。草丈1.0cmもある長いもので、少しの時間でたくさんとる。月輪コースへ下るのを止めて表参道を清滝へ下ることにする。30丁目辺りでアベックがお手々つない

で上って来たが、「ゲツリンジ」は何処ですかときく。もうこゝまで来たら、元の道へ引返すことも出来ないから、神社からの下り道を教える。初めて来た者であろう。のどが乾くが、例のポリタンは中々とけない。ポトポトとしづくがたれるだけ。少し凍らし過ぎたね。下の水場で谷水を入れて、ヤットののどをうるおす。清滝公園から愛車で一気に帰宅した。

(第21回)	9月2日	晴	畑 照人	T君御元気ですか、私も相変わらず元気で山へ行ってます。今日も愛宕さんへお参りしてきました。9月になるとやっぱりよろしい。暑さも峠をこしたし、気分も快適です。今日はお参り半分、後はゲンノシヨウコを摘みに行きましたんや、山は何時来てもよろしいな。
--------	------	---	------	---

今、京都新聞に「おいらくの山岳会」の事がのってますが、全くその通りだすな。わしらの云わんとする所を全部発表している感じですよ。ゲンノシヨウコ、たくさんありましたぜ。神社をお参りしてから、竜の入口と三角点の入口を確かめにいきましたんや。いやひどい藪でね、大変でした。何だか虫にさされて顔がヒリヒリです。此所で一寸失敗しましたんや。カメラを落しましてね、ハッと思いました。秩父連山のヤブコギで三脚を落した事を思い出しましたんや。こんな時全部持物をリュックに入れるべきなのに、すっかり忘れてしまくて、ほんまに災害は忘れた頃にきますなあ……。幸いに引返してさがしましたんやでエ……。もうコリゴリだす。今日も若い人や年輩の人に行き合いました。声を掛けても返事のないのはくたびれていやはるのやろうか……。人違いやと思うたはるのかなあ……。歩くのはよろしいが、汗と体臭に虫がくるのに大弱りでした。つくづく馬の尻尾が羨ましかったです。今度T君の御都合のよい時、お伴しましょうよ。

頂上温度 19°

(第22回)	9月16日		畑 照人	T君御きげんさん。17号台風が大きな落し物して去りましたね。私も出るに出不れず、足が夜泣きましたよ。9月も半ば過ぎると疏石に山の空気が冷たく感じられて来ましたよ。昨日敬老の日でしたね。今日の為に一寸した歩きです。狸谷の奥の院巡り、葉山観音、曼珠院から松ヶ崎の大黒さんへ行きました。そうそう富士市の高令者マラソン大会で60人からの日射病患者が出たとか。あんな無理は大いに注意しましょうや。もう私も22回の愛宕山参りです。鶯の声も前回頃から聞かれなくなり、季節の移り変りがハッキリとしてきました。梅の木小屋の前にはミスヒキ、ゲンノシヨウの白花、ツリフネ、チカラシバ、オバコが沢山ありました。今日は採取つもりではなかったのですが、あんまり立派なゲンノシヨウコがあったので遂々手が出てしまっただね。官司さんに、この前もつんでましたね。といわれ赤面です。快調な登下山で予定より早く帰宅しました。今日の神社前の温度は18°でした。
--------	-------	--	------	---

大文字山 (第11回)	9月1日		畑 照人	もう鶯の声はきかれない。セミが歓迎のコーラスである。今日はいちたちなので、池の谷地藏さんのお参りの人が多い。山どして歩いてくるのは私だけらしい。下りは俊寛碑から浄土寺のバス停
----------------	------	--	------	---

へ出る。この道は人が通らぬと見えて、物すごい雑草で道が全然分らぬ所があった。始めての人なら困るだろうと思う。それから三角点附近の雑草の刈りとりはよいが、スキヤ萩までバツサリとやられてさっぱりワヤです。お月見の風情が全く台無しとなっている。無風流なことです。私お月見楽しみにしてましたのに、もう行く用事なしとなりました。

## 雑 報

### ▲ 9 月 集 会 報 告

9月20日(月)

下鴨寮

出席者 名誉部員 伊藤潤治氏

本 局 武田、三橋、宮後

梅 津 吉田

横 大 路 田中

以上 6名

\* 第1100回記念例会集中登山の打合せを行ない、各コースの担当者を決定する。

### ▲ 部 費 受 領

昭和51年度 前後期 西賀茂 浜田政治

五 条 高橋豊次

### ▲ 山とスキー映画会開催のお知らせ

日時 51年10月21日(木) 6時開場

場所 京都労働者総合会館(四条御前西入北側・旧市バス四条車庫)

- 内容
1. ウェイン・ウォンのパレースキー
  2. スキーパラダイス・ヤナバ
  3. ワールドカップ・スキーレース
  4. 槍ヶ岳滑降
  5. 雪山の基礎技術
  6. 冬 山(富士山・西穂高岳)

上記の通り上映の予定でありますが一歩変更になるかも知れませんのでその際は御了承下さい。

なお今回、場所が変わりますので間違いのないようにしてください。

なお前売券は、各支部委員まで



真の専門店として  
好日山荘は前進しております  
山とスキー用具の  
ことなら御まかせ下さい



確信ある用具を  
確信ある価格で・・・  
**好日山荘**

河原町六角下ル東入  
TEL 241-1731

**PRO SHOP**  
山とスキー **テニール**  
輸入品とオリジナルの店  
AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下  
定休日 月曜日 (221)6186

### 京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による  
安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

ダイビングプロショップ  
**エリート**

スキューバプロ(米) 京都総代理店  
スキューバアポロ 京都総発売元  
AMF ポイト(米) 京都総代理店  
テクニサブ(伊) 京都総代理店

〒603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075 (492) 8450

昭和51年10月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 京交山岳部

帆布・漣布  
テント・シート  
雨合羽

### 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331(代)

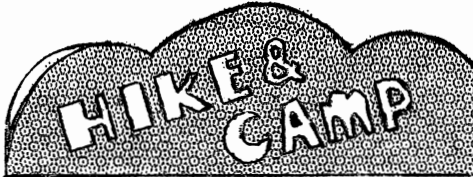
名古屋営業所  
名古屋市西区児玉町7-30  
TEL 521-7541代~4

テニス用品  
スキー用品  
山用品

交通局の皆さん  
とりあえず 京菱へ  
満足のいくようにします

### 京菱運動具店

下・大宮松原上ル  
TEL 801-1331



この用具の事ならココが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ  
そして  
海の



中・二条通河原町西 TEL231-1208

みんな知っている  
古くからの厚生会特約店

### 野球用具 硬式・軟式専門店

ゴルフ 初心者向クラブ 沢山  
あります 特に偶数クラブOK  
以上の商品なんでもOK  
購買証御利用下さい

月賦可 電話にて御注文下さい

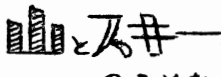
### KK西沢スポーツ

中・釜座御池下  
(221)5739

HafuKe まかせて下さい...ネ



KYOTO



のことなら

☆在庫豊富にとり揃えています  
☆山の道具は"ゼヒ"御相談下さい  
☆友の会会員募集中(毎月1000円)

### 山とスキーの専門店



河原町店 上・河原町通丸太町東入  
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

山を美しく //

山のごみは

各自持って帰りましょう